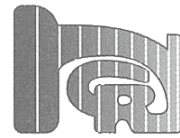


フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533



温故知新 ～故(ふる)きを温(たず)ねて 新しきを知れば、以て師となるべし～

事務局長 西川 克美

中部ろうさい病院は、中京工業地帯における産業医学のセンター病院の役割を担うために、昭和30年3月に内科、外科、整形外科の3診療科、病床数50床で開院、その後順次診療科の増設、増床を行い、現在は28診療科、621床となり、来年は人間であれば還暦にあたる60周年を迎えることとなります。

開院初期の昭和32年度と平成25年度の診療データを比較すると次のとおりです。

区分	平均在院日数	1日平均患者数		労災患者比率	
		入院(うち新入院)	外来	入院	外来
昭和32年度 (1957年)	78日	365人(5人)	503人	50%	19%
平成25年度 (2013年)	16日	458人(29人)	1,391人	3%	2%

開院初期と比べて平均在院日数も大幅に短縮され、患者数も増加していますが、労災患者比率が大きく減少しています。この労災比率だけを見ると、ろうさい病院の役割は終わったように思われがちです。しかし、現在でも年間50万人を超える労働者が被災し、アスベストによる健康被害や精神障害等による労災認定件数が増加しています。また、少子高齢化に伴う就業者数の減少が見込まれる中、定期健康診断での有所見率も50%を超え、予防医療に加えて労働者の治療と就労の両立支援も重要となってきております。このように政策病院としてろうさい病院が取り組むべき課題は山積しています。

このような状況の中で、中部ろうさい病院は政策医療として、労働者に多い腰痛の原因と診断・治療の研究、糖尿病患者さんの就労と治療の両立支援の研究などに取り組んでいます。また、地域医療支援病院として、24時間救急や紹介患者さんの受け入れ、高度・先進的な検査や手術を行う一方で、地域の他の医療機関等と連携を強化し、病状が安定した方の療養施設やかかりつけ医への逆紹介、医療従事者を対象とした研修会、地域の皆さんを対象とした講演会等も実施しています。

さらに、がん診療拠点病院、災害拠点病院として地域の皆さんのセーフティーネット的な役割も担っております。これからも、政策医療を行うとともに、地域の皆さんから、なくてはならない病院と思われるよう日々尽力してまいります。

この「フィリア・レター」は、患者さんと私も医療者の相互理解を深める橋渡しの役目を果たし信頼される病院の手助けになることを期待して、平成14年8月に第1号が発行され、今回で第39号となりました。本冊子が、医療者側の自己満足に終わらないためにも、第1号の精神を忘れずに継続発行していきたいと考えています。



開院初期(昭和33年)の中部ろうさい病院

今月号のお知らせ

- ①温故知新～故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知れば、以て師となるべし～
.....事務局長 西川 克美
- ②検査科のご案内
.....検査科部長 加藤 文一
- ③ジェネリック医薬品ってなんだろう？
.....薬剤部長 長谷川 功

- ④感染対策！みんなで行うことに意味がある!!
.....感染管理認定看護師 福原 順子
- ⑤投書
- ⑥人間ドック健診施設機能評価の認定が更新されました
- ⑥研修センター通信
- ⑥編集後記
- ⑥当院の理念・当院の基本方針

医師



検査科のご案内

検査科部長 加藤 文一

検査科って何をするとおっしゃいますか？患者さんにとっては、採血や検尿・検便といった検査を思いつく方が多いかと思いますが、検査科ではこういった検査はもちろん、他の検査業務も行ってまいります。

当院の1階採血室では、おなじみの肝臓、腎臓の機能や、脂質代謝、血糖値や糖尿病関連、甲状腺などのホルモンや、検尿、検便、髄液検査なども請け負っています。

ほかには、輸血、細菌検査室があります。輸血検査では、主に輸血を受けられる患者さんの血液型や感染症の事前チェックと、輸血後の経過観察、血液製剤の保管を行っています。

細菌検査室では、発熱している患者さんの痰、血液、尿などの検体を用いて細菌がいるかないか、いるとしたらどんな抗生剤を使用したらよいかを検査しております。

2階の生理検査室では、心電図、ABI(足関節上腕血圧比)、呼吸機能検査、脳波、筋電図などの波形解析が必要な検査や、超音波装置を使った生体内のリアルタイムの情報を取り出すような検査も行ってまいります。たとえば、体表面エコーでは甲状腺、乳腺の形態の観察や悪性腫瘍のスクリーニング検査などです。また血管エコー図では動脈硬化の程度、狭窄の評価や静脈では血栓症の有

無なども検査しております。腹部エコー図では内臓の形態、一部の臓器の悪性腫瘍のスクリーニング、心臓領域では心機能、弁膜症の評価も行ってまいります。また臓器によっては超音波ガイド下での病理検体の採取や治療も行ってまいります。

また、検査室では行えませんが、各科の先生方と協力して手術中の生体機能モニターなどにも出張しております。他には、睡眠時無呼吸検査のための入院あるいは自宅でもできる睡眠ポリグラフ検査も行ってまいります。

健診センターでは、健康診断や人間ドックに必要な採血、検尿、検便、心電図や呼吸機能検査、聴力測定や眼底写真なども行ってまいります。

いずれの検査においても、各専門分野の学会認定の検査技師を中心に行われており、可能な限り迅速で質の高い検査データを報告するようにしています。また、検査の一環として院内の感染制御チームや栄養サポートチームにも帯同して一緒に活動しております。

時期や、受診日によっては大変込み合っていてお待たせすることがあるかもしれませんが、迅速で正確なデータ報告のため頑張っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。

薬剤師



ジェネリック医薬品ってなんだろう？

薬剤部長 長谷川 功

最近、ジェネリック医薬品のテレビコマーシャルや新聞広告をよく目にしませんか？有名な芸能人がコマーシャルしていますよね。ジェネリック医薬品は後発医薬品とも言われますが、先発医薬品(これまで使われてきた新薬)の特許が切れた後に販売されるもので、これまで有効性や安全性が実証されてきた新薬と同等と認められた低価格なお薬です。ジェネリック医薬品のポイントは以下のとおりです。

1 先発医薬品より安価で経済的

複数のお薬を服用している方や、長期服用が必要な方ほど、自己負担の差額が大きくなります。低薬価であるジェネリック医薬品を選ぶと、新薬を選んだ場合に比べ自己負担が軽くなります。先発医薬品の研究開発には9年～17年程度の長い歳月と数百億円以上の開発費が値段に反映されています。これに比べてジェネリック医薬品はすでに有効性や安全性について先発医薬品で確認されていることから開発費やコストを大幅に抑えられ、その結果として薬の値段も先発医薬品と比べ3割～5割程度に安く設定されており、患者さんの自己負担の

軽減や医療保険の財政改善につながります。

2 効き目や安全性は先発医薬品と同等

ジェネリック医薬品が先発医薬品と同じレベルの品質・有効性・安全性を有するかどうかについて欧米と同様な基準で審査を行っています。ただし、薬の形や色や味は異なる場合があります。

3 欧米では広く普及

ジェネリック医薬品の数量シェアはアメリカで90%以上、ヨーロッパでも60～80%になっています。日本においては平成23年9月現在で約40%程度にとどまっています。

では、なぜ国がジェネリック医薬品を使用促進するのか？それはジェネリック医薬品の普及によって、一人ひとりの自己負担や国の財政・健康保険組合の負担などの削減、ひいては高齢化社会の進展によって増大を続ける国民医療費の抑制にもつながるためです。

ジェネリックの特徴やメリットを理解していただき、ぜひジェネリック医薬品をご活用ください。ジェネリック医薬品を希望する場合は、医療機関や薬局で医師や薬剤師に相談しましょう。

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。
URL : www.chubuh.rofuku.go.jp/letter/


 看護師

感染対策!みんなで行うことに意味がある!!

感染管理認定看護師 福原 順子

みなさんは、「病気を治しに病院に行ったのに、カゼをもらって帰ってきちゃった」なんて経験ありませんか?確かに病院は病気を治すところです。しかし、“病気の人が集まる=菌やウイルスも集まる場所”でもあります。だからこそ、病院では、患者さんはもちろんご家族・職員などすべての人々が感染を「しない、させない、広げない」ための対策に取り組まなければなりません。でも感染対策といわれてもピンとこないですよ?そこで病院をぐるっと見渡してみましょう。玄関や病棟受付に設置してある手指の消毒剤、医師や看護師が付けているマスク、採血や点滴をする時にはめている手袋、当たり前の光景ですが、これらが感染対策なのです。また冬には、みなさんご存知のインフルエンザやノロウイルスが流行します。そんな時、手洗い・うがいの励行や咳・くしゃみがでる方へマスク着用のポスターなど目にすることはありませんか?それらも感染対策のひとつなのです。

病院では、職員から患者さんやご家族に感染しないよう職員教育をしています。しかし、みなさんが感染しないためには、みなさん自身が感染対策に取り組むことも必要なのです。

いつも目にする手洗い・うがい・マスク着用のポスター。これらは職員だけが守っても、感染を防げません。みなさんと共に

行ってこそ、感染を「しない・させない・広げない」が実現されるのです。私たちと共に感染対策にぜひ取り組みましょう!

来院される方へ
～感染対策ワンポイントアドバイス～

1. 手洗いより便利な消毒剤!

病院に出入りする時には、玄関のすり込み式消毒剤を使いましょう。石けん手洗いよりも簡単で、すぐれた効果を発揮します。



2. マスクは口・鼻・あごまで覆いましょう!



3. 帰宅後は、手洗いとうがいをしましょう。

うがいは順番も大切です!



①初めは口の中をグチュグチュペッ

②次にのどの奥をガラガラペッ

投 書

吹く風もめっきり秋らしく、新米の美味しい季節になりました。

美しいデザインでそびえ建つ中部ろうさい病院に、私は、一週間に一度か二度、ボランティアに参加させていただいて、患者さんとの交流や、病院の細やかな手助けをさわやかに、そして楽しく、更に私自身のボケ防止で来ています。

ボランティアをはじめてから丸五年近くと日は浅いのですが、いろんな行事がある中でも、入会当時に比べてひとつ感じたことは、ロビーでのコンサートが年々増えていると同時に、患者さんの参加が多くなり、終了後のお帰りの時の顔が、安らぎに満ちて晴れ晴れとしておられることをいつもうれしく思っております。

コンサートの内容は、お琴、三味線、二胡、ハンドベル、歌等、様々です。そのほか、年三回ほどの呈茶会、月一回ずつの絵手紙、季節ごとの飾り付け、クリスマスのカードの作成、それを通して、患者さんと病院（看護師さん）と気持ちをかよわせるという行事もあります。

優秀な先生方が病気を治す事は勿論ですが、看護師さんのその手助けは、いう迄もなく、患者さんとの心の掛け橋となり、医療の中により一層の喜びと信頼を大切に出来る病院になるように、私達ボランティアも心ばかりの手助けをとエプロン姿で頑張っております。

川柳を作りました。

病院の ボランティアにて ボケ防止
入歯入れ 鏡の中で 若返り

ふだん思っていることを書いてみました。

失礼しました。

(ボランティア K.S)

人間ドック健診施設機能評価の認定が更新されました

中部ろうさい病院は、日本人間ドック学会が認定している人間ドック健診施設機能評価の審査を受け、2009年の1回目の認定に引き続き、2014年4月から5年間、認定が更新されることとなりました。現在、全国で321施設(愛知県17施設)が認定されています。



当院の特徴である専門医による結果判読・判定や生活習慣病予防のための生活・栄養・運動指導、ゆったりとした時間と清潔な癒しの空間の提供などが評価されたものと思っております。

「年に1度は人間ドック！」病院併設型ならではの安心の人間ドックを是非、受検されてみてください。

予防医療センター事務長 畠山 泰之

>> 研修センター通信 <<

◆研修医の採用試験◆

例年、8月のお盆前後に翌年4月から当院で働く臨床研修医の採用試験を、実施しています。

研修医の採用は、マッチングと呼ばれる全国的なシステムで内定して行きます。病院からは採用試験結果による順位を、受験者たちからは自分の受験した病院の希望順位を、いずれも「医師臨床研修マッチング協議会」という機関に一旦登録します。マッチング協議会は、それぞれの希望順に沿った組み合わせを行い、その結果が内定となります。このシステムは受験者と病院の希望にできるだけ沿った就職、採用が実現されるというメリットがあります。どこか「お見

合い”にも似た要素を感じます。

さて、この段階で“内定”と書きましたが、実はこのマッチングの数ヶ月後、就職を目の前に控えた春早い時期に、就職決定への最終関門となる国家試験があるのです。この国家試験を合格し、医師の資格を獲得することにより、ようやく臨床研修病院の研修医として“採用”が決定となり、無事、医師人生がスタートできるわけです。

人の命を預かる仕事ゆえ、このスタートの先にも、さまざまな関門が横たわっていますが、これらを乗り越えて頑張っていけるよう、我々研修センターや職員も微力ながらお手伝いしていきたいと思っております。

～～ 編集後記 ～～

朝晩が冷え込むようになり、秋の訪れを感じますね。秋と言えば、読書の秋、食欲の秋、芸術の秋・・・など、「秋」から想像する言葉はどれもワクワクすることばかりですね。

さて、来る11月8日(土)に第7回白鳥・市民健康セミナーを開催することとなりました。今回は胃がん・大腸がんをテーマに、当院で実際に診療にあたる医師より地域の皆さんにわかりやすく病気を知っていただきたいと開催するセミナーです。是非ご参加ください。(M.S)

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・ 医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・ 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・ 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・ 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・ 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供